

## 令和7年第4回（9月）瀬戸内市議会定例会

### 行政報告

本日は、令和7年第4回（9月）瀬戸内市議会定例会を招集しましたところ、ご多用の中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

市長に着任してから2か月半が経過しました。市民の皆さまとの約束を形にするため、この期間、来年度以降の予算策定に向けた議論を重ねてきました。ただし、新しい施策に取り組むためには、全てにおいて財源が必要となります。そのため、同時にふるさと納税額の拡大に向けた取組にも注力してきました。

ふるさと納税額は、市長に着任した6月時点では、前年比で67.1%と、マイナス32.9%の状況でした。しかし、さまざまな施策を一つずつ積み重ねた結果、7月時点（前年同月比）では98.9%に回復し、8月31日時点（前年同日比）では142.59%の速報値となり、前年を大きく上回る状況に到達することができました。引き続き、税収増に向けた取組を、市役所職員の皆さん、市民の皆さんの力をお借りしながら進めつつ、市民の皆さまとの約束を形にできるよう、議論を深めていきたいと考えています。

さて、令和7年7月30日、カムチャツカ半島付近で巨大地震が発生し、日本列島の広い範囲に「津波警報」及び「津波注意報」が発表されました。

当市においても「津波注意報」が発表されたことから、「瀬戸内市避難情報等の発令及び伝達マニュアル」に基づき、沿岸地域の2,151世帯、4,110人に対して「避難指示」を発令しました。また、8月6日から  
の大雨により、熊本県をはじめ全国で、河川氾濫等による多数の人的被害、建物被害が発生しています。この度の災害により被災された方には心よりお見舞い申し上げます。当市においてはいずれも被害は発生していませんが、今後発生が懸念される南海トラフ地震や台風等による風水害に備え、今一度、市の防災体制を見直すとともに、市民に対して日頃からの備えを行っていただけよう啓発を進めていきます。

それでは、主な取組についてご報告させていただきます。

#### ○ 令和7年度ふるさと納税について

6月の個人版ふるさと納税寄附額は約7,052万円、前年同月比67.1%でしたが、7月の寄附額は約7,169万円、前年同月比で98.9%、8月の寄附額は約9,448万円、前年同月比で142.59%と回復しました。広告手法を改善し、主力の返礼品であるオリーブオイルをはじめ、桃や牡蠣の露出を増やしたこと、そして需要が多い米の仕入れを取り組んだことで、寄附額が増加したと分析しています。

今後は寄附を受け付けるポータルサイトを増やすとともに、市の取組や特産品の魅力を発信し、新規寄附者の獲得を目指します。また、税制改正に伴

い、10月から楽天やふるさとチョイスなどのふるさと納税ポータルサイトでのポイント付与が禁止されることを受け、市のふるさと納税サイトのPRを強化するなどの対策を講じ、更なる寄附額の増加を目指して取り組んでいきます。

## ○ 令和7年国勢調査について

令和7年10月1日を基準日として、全国一斉に「令和7年国勢調査」が実施されます。

この調査は、5年に一度、日本に住んでいる全ての人を対象とする、国の最も基本的な統計調査です。調査の結果は、衆議院議員選挙区の区割り改定や議員定数の基準、福祉政策や防災対策など国や地方公共団体の行政施策での利用をはじめ、研究・教育・経済活動など、行政以外の幅広い分野において活用され、私たちのより良い暮らしや住みよいまちづくりに役立っています。

国勢調査は、人口減少や少子高齢化の最新の状況を地域別に明らかにし、日本の未来を描く上で欠くことのできない重要なデータを得るためのものです。

本市におきましても、約180人の調査員を委嘱し、調査を実施しますので、正確かつ迅速に行えるよう皆さまのご協力をお願いします。

## ○ プラスチック資源の一括回収について

令和4年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環等に関する法律」により、プラスチック製容器包装以外のプラスチック製品についても再資源化することが自治体の努力義務とされたことから、本市においても、令和8年4月から、プラスチック資源の一括回収に取り組む予定です。これまでは、燃やすごみとして処理していたプラスチック製品を資源化することにより、燃やすごみの更なる減量化を図っていきます。

## ○ ごみ処理手数料の改正について

地球温暖化や海洋マイクロプラスチック問題などの地球環境問題への対応として、ごみの減量や再資源化による、CO<sub>2</sub>排出量の削減、循環型社会への転換が求められる中、ごみの排出量に応じたごみ処理手数料とするべきところ、本市では1リットル当たりの換算で、大きいごみ袋で出したほうが安価となっており、ごみ処理に係る負担の公平性やごみの減量といった観点で課題となっています。

このため先ほど申し上げましたプラスチック資源の一括回収と併せて、ごみ処理手数料を排出量に応じた負担となるよう改正することとし、今議会に瀬戸内市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正議案を提出しています。

## ○ 介護予防教室について

7月30日にゆめトピア長船で行われた介護予防教室において、岡山大学病院聴覚支援センター准教授の片岡祐子（かたおか ゆうこ）先生を講師にお招きし、シニア世代に聞こえの大切さを考えていただくための講演をしていただき、42人の参加がありました。

加齢に伴う難聴を放置することで日常生活に大きな悪影響を及ぼす可能性があること、予防や早期発見が重要であること、聞こえの改善のためには補聴器の活用が有効であることなどについてお話をいただきました。

参加者からは、「難聴についてとても勉強になった」、「補聴器の大切さが分かった」などの声がありました。

講演会と並行して、簡易の聴覚検査を実施し、17人が検査を受けられ、聞こえの状態を確認しました。

今後も、難聴や補聴器に対する正しい理解を促進し、難聴の早期発見・早期対応に努めることで、認知症予防や社会参加を支援していきます。

## ○ こども家庭センターについて

令和7年4月から、こども・健康部内に設置された「こども家庭センター」において、児童福祉機能と母子保健機能を統合して、相談支援を行っています。

7月末時点の相談件数は、児童福祉関係が26件、母子保健関係が168

件でした。このうち、児童福祉機能と母子保健機能の一体的相談支援を検討している件数は12件であり、これは当初の想定を上回る件数となっています。

今後も市民への周知を進めるとともに、相談しやすい環境づくりに取り組んでいきます。

#### ○ 大阪・関西万博の出展について

8月6日から12日までの7日間、9万6千人の来館者があった大阪外食産業協会のパビリオンにおいて、「食の器」をテーマに、備前焼、虫明焼、須恵器のPRと、販売を通じたプロモーションを行いました。また、8月22日から24日までの3日間、7万人以上の来館者があった岡山県ブースで、「刀剣」をテーマに、国宝「山鳥毛」のデジタル鑑賞を通じたプロモーションを行いました。両出展を通して、伝統工芸美術品を主とした本市の魅力を周知するとともに、多くの来訪者がSNSフォローや自ら観光パンフレットを持ち帰るなど、本市へ来訪する動機付けができました。

#### ○ 備前長船刀剣博物館・瀬戸内市立美術館について

現在、博物館では、11月24日まで、「刀剣は人を救う ふなっしーの刀剣展」を開催しています。Youtubeやバラエティー番組で活躍中の千葉県船橋市非公認キャラクター、ふなっしーは、愛刀家、コレクターとして

も知られており、ふなっしーが刀剣に魅せられ、愛刀家に至った経緯を本館特別展として紹介しています。武器としてだけではない刀剣の魅力を発信し、連日、多くの来館者で賑わっています。特に前期展初日のオープニングセレモニーには、定員の約4.5倍の応募があり、当日には抽選漏れになった方も雰囲気だけでも楽しみたいと会場の外に集まるほど盛況となりました。なお、会期は前期と後期に分かれ、前期は9月24日まで、後期は10月1日から11月24日までです。

また、美術館では、7月9日から8月31日までの間、「猫、牛窓ニテ 星ヲモッテ シュウゴウ!」と題し、花房さくら氏の木彫展を開催しました。猫をモチーフにした思わずクスッと笑ってしまうハッピーな作品を観覧したファンや来館者からは、「元気よく手を挙げる猫、まるで人間のようで、ユーモアにあふれた作品だ」とSNS上でも大きな話題となり、会期中には1万8,665人と、昨年の「96歳 セツの新聞ちぎり絵原画展」に次ぐ、歴代展覧会上3位の来館者を記録し、盛況に終わりました。なお、展覧会は、邑久高校や牛窓中学校の美術部員、地域団体と連携し、ワークショップやイベントを実施し、地域の芸術文化の振興も図ることができました。

さらに、博物館、美術館の展覧会に合わせて、市内の飲食店や観光物産店、宿泊施設を巡るARスタンプラリー等も実施しています。観光スポットや飲食店等を巡り、スタンプを集めて参加記念品を受け取りに来る人が日々あり、各店舗から集客・販売効果が上がっているとの声が寄せられるなど来訪者の

市内周遊が促進され、本市の魅力を更に知るとともに、地域消費を高めることにつながっています。

#### ○ 市民の安心の向上に向けた救急の取組について

令和7年10月1日から「#7119」の救急安心相談窓口の受付とマイナ保険証を活用した「マイナ救急」の救急搬送が始まります。

「#7119」とは、病院が診療時間外の早朝や深夜、日曜日・祝日などに急な病気やケガをしたときに「救急車を呼んだ方がいいのか」など判断に迷った際、救急相談窓口として医療の専門家から電話で直接アドバイスを受けられる電話番号です。相談内容から緊急性が高ければ、迅速な救急出動と判断されます。緊急性が高くない場合は、受診可能な医療機関や受診のタイミングについてアドバイスが受けられます。

また、マイナ保険証を活用した「マイナ救急」とは、救急隊員が傷病者のマイナ保険証をカードリーダーで読み取り、傷病者が過去に受診した病院や処方された薬などの医療情報を把握し、それをもとに搬送病院の選定をするなど、傷病者の方がより適切な処置を受け、救急業務の円滑化を図る取組です。本事業の効果的な利用を図るため、ホームページや市の広報紙、ポスター等の掲示により市民に幅広く周知し、普及促進を図ります。

#### ○ 全国学力調査について

4月に実施した全国学力・学習状況調査結果が7月末に公表されました。今年、小学校6年生の国語と算数と理科、中学校3年生の国語と数学と理科が実施されました。瀬戸内市の平均正答率を全国の平均正答率と比較すると、小学校では、国語は全国平均と同程度、算数と理科は全国平均をやや下回る結果となりました。一方、中学校では、国語・数学・理科のいずれの教科も、全国平均を上回る結果となりました。

また、過去の調査結果と比較すると、同一集団で、小学校6年時から中学校3年時にかけて学力が伸びており、特に中学校における学力向上の取り組みが成果を上げています。

今後は、設問別の分析等を通じて課題のある学習領域に対応した補充的な授業等を実施したり、1人1台端末のAIドリルを活用して個別最適な学びを進めたりすることで、基礎学力の定着と自律的な学びの実現に取り組んでいきます。

#### ○ 第5回瀬戸内市民芸術祭について

9月7日から12月21日までを会期として、第5回瀬戸内市民芸術祭を開催します。市民が主体的に取り組んでいる「長船名刀太鼓パフォーマンス」や「せとうちこども合唱団ティンカーベルコンサート」など12の事業について、ゆめトピア長船を主会場として実施する予定です。

また、今回の芸術祭では、5周年を記念し、地元長船町の書道家や和太鼓

のパフォーマンス、世界最先端の電子楽器5次元キーボードの奏者である藪井佑介（やぶい ゆうすけ）氏による演奏など、魅力的なステージを企画しています。

さらに、市民芸術祭主催事業として、瀬戸内市の未来を担う子どもたちに向けた企画も実施します。NHKのEテレでおなじみの「ピタゴラスイッチ」に魅せられた、天才「ピタゴラ装置」クリエイターの岡田朋也（おかだ ともや）氏をお招きし、遊びの中からオリジナリティあふれる創作活動を体験できる機会として、「MY・ゴロゴロスイッチ」作品の動画を募集し、コンテストを開催します。

地域で活動されている多くの方々に表現の場を提供するとともに、市民が気軽に文化芸術に親しむ機会を増やし、文化芸術に参画できるまちの実現を目指します。

## ○ 部活動の地域移行について

部活動の地域移行の実現に向け、「瀬戸内市部活動地域移行推進協議会」において審議を進めており、8月5日に開催された同協議会において、「基本方針（素案）」が取りまとめられました。

この素案は、8月22日に開催された教育委員会議において審議され、現在、市民の皆さまからご意見をいただくため、パブリックコメントを実施しているところです。

今後は、寄せられたご意見を参考に内容を精査し、教育委員会議での承認を経て、10月頃に「基本方針」を決定する予定です。

さて、今議会で提案申し上げます案件は、条例9件、補正予算8件、その他14件、計31件です。

よろしくご審議をいただき、適切なお決定をいただきますようお願い申し上げます。報告を終わらせていただきます。

令和7年9月2日

瀬戸内市長 黒石 健太郎